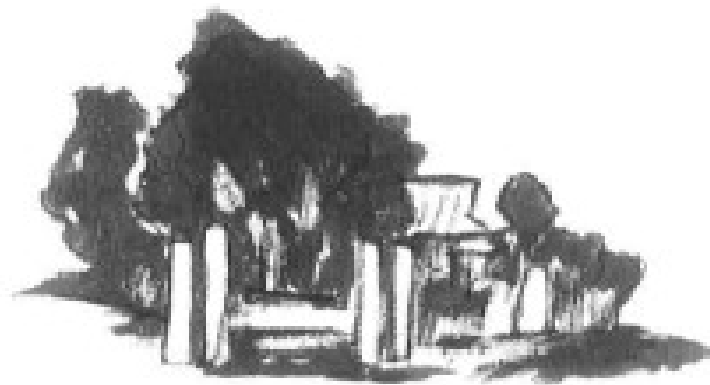


御み墓はか山やま



国道二二三号と小須賀道を交差したところを西へ原野に入ると、樹木がそびえ立つ小高い塚があります。ここは俗に御墓山と呼ばれています。

新田義貞が、上野国（群馬県）から、旧利根川（現在の会の川）づたいに鎌倉街道を上り、羽生市小須賀を通り鎌倉に向う途中、不幸にも一族をひきいた武将が病に倒れ

亡くなりました。義貞は懇にこの地にとむらい冥福を祈りました。そして、後の世まで供養できることを祈念し祠（神をまつた小さなやしる）を建てました。以来、この塚は御墓山と呼ばれ、近年まで、参拝の人足が絶えなかつたと言います。

新田義貞は南北朝時代の武将で、先祖は清和源氏（清和源氏）の一族ですが、源義家の十世の孫に当り、上野国新田郡に土着し、新田を名乗りました。一三三三年鎌倉に入って、北条氏を滅ぼし、その後の戦で一三三八年戦死しました。

御墓山のふもとには、岩瀬河原の合戦（忍城と羽生城の戦）で羽生城が大勝利を得、兵士たちが、血の着いた刀や衣服などを洗ったという、血洗の池が、くぼみになって往時をしのばせています。

御墓山より東を望むと、岩瀬河原の戦勝記念に建立したという八幡神社や、堀の内岩跡（いそせ）などもあります。

遠い昔のロマンが、このあたりには息づいているようです。

※清和源氏……清和天皇から出て源氏を賜った氏。天皇の皇子である貞純親王の子と称する経基や孫の満仲は鎮守府將軍に、その子頼朝は征夷大將軍に任ぜられた。

